

七沢療育園便り

第100号

2021年8月発行

発行責任者 渡辺 偉二

神奈川県総合リハビリテーションセンター七沢療育園

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢516

電話 046-249-2720

ファックス 046-249-2739

看護課長ご挨拶

看護課長 植松高寧



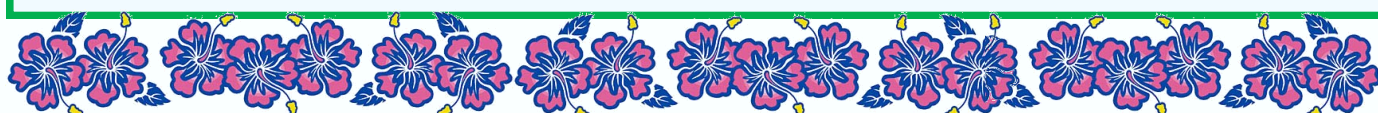
8月に入り、ひととき厳しい日差しが照りつけ、山の緑もより濃く感じるこの頃です。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

季節は変わっても新型コロナウイルス感染症による影響は続いています。七沢療育園では利用者の皆さまの安全を第一に病院の方針などを踏まえながら、面会はZOOMやガラス越し面会で対応させていただいています。制限のある面会でも利用者の皆様は、ご家族の明るい声かけや笑顔を見ると、うれしそうな表情や笑顔になります。それを観ている私たちも自然に笑顔になっています。

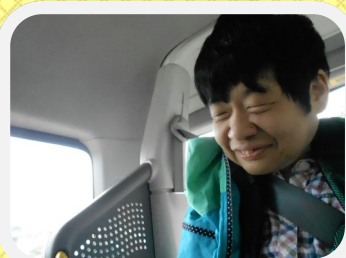
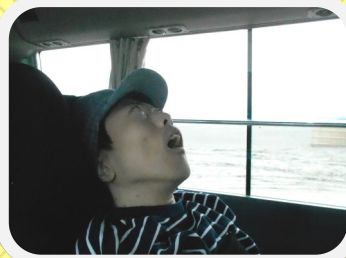
誕生会や、夏祭りなどの行事も感染対策を講じながら開催させていただいています。今はまだ写真などでの報告ですが、ご家族の皆様が行事などに参加できる日が来ることを楽しみにしております。

また、新型コロナワクチン接種につきましては、長期入所者で保護者の皆様の同意がありました65歳以上の利用者は2回目の接種が終了しました。65歳未満の方も厚木市から重心施設に対してワクチン提供されたタイミングでワクチン接種を開始させていただき、8月中には2回目の接種が終了する予定です。保護者の皆様には同意書や接種券を届けていただくなどご協力いただきありがとうございました。

ワクチン接種は進んでいますが職員一同、気を緩めずに感染対策を継続していく所存です。ご家族および支援関係の皆様には、依然多くのご不自由をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

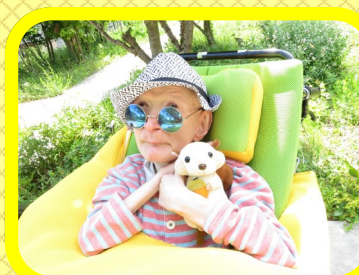


4月からの活動風景その①



外出は一人ずつ
ドライブに行っ
ています。

春先、お天気の日
は日向ぼっこを楽
しました。



自分で作ったコイノボリで釣り大会を
しました。

4月からの活動風景その②



七夕で願い事
たくさん。



全体活動では
東京観光
沖縄観光
と題して旅行
気分を味わい
ました。



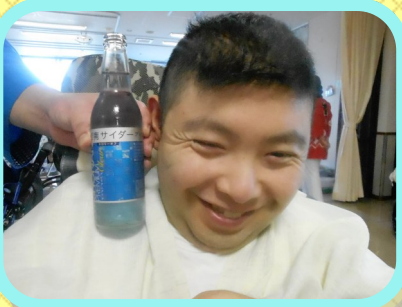
庭でできた
収穫物→



夏祭り



お昼は土用の丑の日「うなぎ&あなご」でした！スタミナをつけて、デイルームを貫いた樋にソーメンではなく色々な物を流して涼やかに楽しみました。



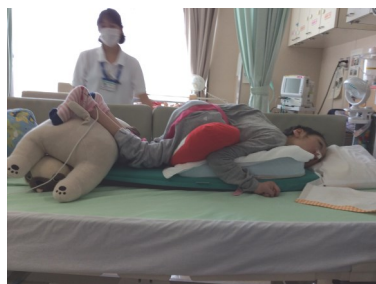
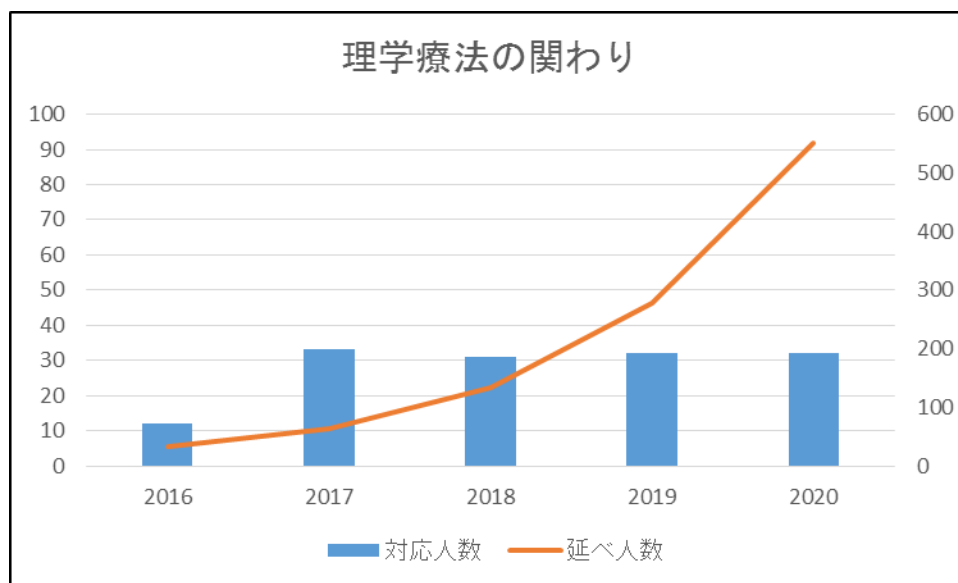
準備では灯籠と風鈴の飾りをみんなで作って飾りました。

理学療法科と療育園の関わり

5年前（2016年度）までは食事に関する評価（摂食嚥下ラウンド）、介護方法・姿勢評価（骨折ラウンド）、補装具・車椅子の対応、呼吸などを必要に応じて関わっていました。2017年4月に神奈川リハビリテーション病院と七沢脳血管センターが合併し、理学療法科のスタッフが約2倍になると、療育園利用者への対応が充実し、合併前（2016年度）は対応者12名・延べ33名の対応でしたが、合併後（2020年度）は対応者32名・延べ551名に増加しました。（グラフ）担当スタッフも1名から6名となりました。

現在では、必要な方に対し、機能維持目的でリラクゼーション・緊張緩和、ストレッチ、動作が可能な方には動作練習を実施しています。また、呼吸に問題がある方の対応や移乗などの介助方法、ベッドや車椅子での姿勢などにも関わっています。

関わりのもう一つの側面は、車椅子や補装具の対応です。機能維持にはそれらの関与が重要で体に合った物を提供する必要があります。また、長く使用していると破損や劣化がみられるため修理対応も行っています。過去5年間に対応した件数は70件で、内訳は車椅子53件（製作14件、修理39件）、座位保持装置11件（製作3件、修理8件）、下肢装具（修理5件）、その他1件（移乗台）でした。



引き続き、利用者・ご家族、スタッフのニーズに応えていきたいと思っています。今後は利用者全員の機能評価などを定期的に行い、健康管理に関わっていく予定です。

文責 理学療法科 相馬光一

リハビリテーション工学科と療育園の関わり

神奈川リハビリテーション病院は、国内でも数多くない、リハビリテーションエンジニアがいます。療育園にとっても欠かせない存在になっていますのでご紹介します。

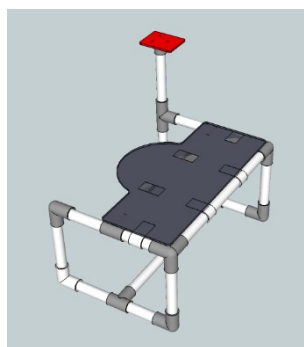
リハビリテーション工学とは、「障害者のQOLを高めるための 医学、工学および関連科学による総合的リハビリテーションアプローチ」とアメリカ国立科学アカデミー 義肢研究開発委員による定義（1970）がされています。

また、当センター設立時（1973年）のリハ工学研究室職員は、リハ工学について次のように述べています。「工学技術を応用した支援機器を個々の特性に合わせて提供することで、障害に起因する諸問題の解決を図り、それぞれの生活や人生を支援することはリハ工学の重要な側面である。」臨床的実践を基盤にすることがリハ工学の特徴です。

先輩たちから受け継ぐ理念と新しい技術を取り入れ、利用者様の車椅子やベッドマットレス、その他 生活にかかわる福祉用具での支援や研究開発、個別の支援機器の設計から製作、シーティング支援等の臨床支援を行っています。療育園に利用者様にも関わらせて頂いています。

その1事例（療育園利用者）を紹介いたします。
“床から車椅子へ移乗するための台”

車椅子の寸法から設計するだけでなく、安全に移乗できるよう、使用者の移乗動作や能力に合わせて、手をつく位置の工夫や足や臀部が引っ掛かりにくく、転落しないような設計を行います。その他、製作のしやすさや身体に触れる部分の材料選定など細かなところまで考えながら支援機器を提供しています。



3次元図面 検討設計



完成した移乗台



これからも利用者様との関りを大切にしていまいります。見かけたらお気軽に声をかけてください
いね。

リハビリテーションエンジニア 辻村 和見

月間予定

8月



4日	ドライブ外出	15日	ニコニコ会議
8日	全体活動	16日	理容入浴
11日	ドライブ	17日	美容入浴
		25日	誕生会



9月



1日	ドライブ外出	19日	ニコニコ会議
8日	ドライブ外出	21日	美容入浴
12日	全体活動	22日	誕生会
13日	理容入浴		



10月



6日	ドライブ外出	17日	ニコニコ会議
10日	全体活動	29日	美容入浴
11日	理容入浴	27日	誕生会
13日	ドライブ外出		運動会

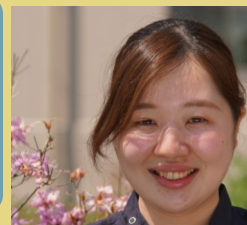


*感染症の状況により、変更する場合があります。



私たちの新型コロナ感染予防対策を紹介します

看護師 土田真弓



①毎日、利用者のベッド柵をアルコール製剤で拭いています。看護助手が中心に行なっていますが、手の空いているスタッフ全員で行なっています。スタッフの手には菌もいますし、万が一コロナによるウイルスが着いていてもアルコールで拭き取りをすることでウイルスが除去されます。



②入所対応では透明の仕切り板を通してご家族との面談で情報をいただいています。利用者に対しても、全身を覆えるような長そでのエプロンとフェイスシールドを着用してケアを行なっています。ケアする人の予防でもあり、他の利用者への予防対策です。

③デイルーム内で利用者同士の間隔を空け、ソーシャルディスタンスを図っています。全員がデイルームに出ようとするとうみち集してしまうため、状況を観てお部屋で過ごしてもらおう方もいます。

④外来受診は利用者もマスクを着用して行っています。

⑤面会方法も園内の玄関ドアを仕切り板代わりにして利用者のご家族で話しをしています。1回10分間としています。また、ZOOM（web会議サービスアプリ）での連絡も積極的に実施しています。



編集後記

療育園だよりも初回発行よりあしかけ15年、100号となりました。楽しくてワクワクするような園便りを目指しています。そして、今の園の取り組みも園便りを通して皆様に分かりやすくお伝えできればと思っています。

看護師 山口美紀

